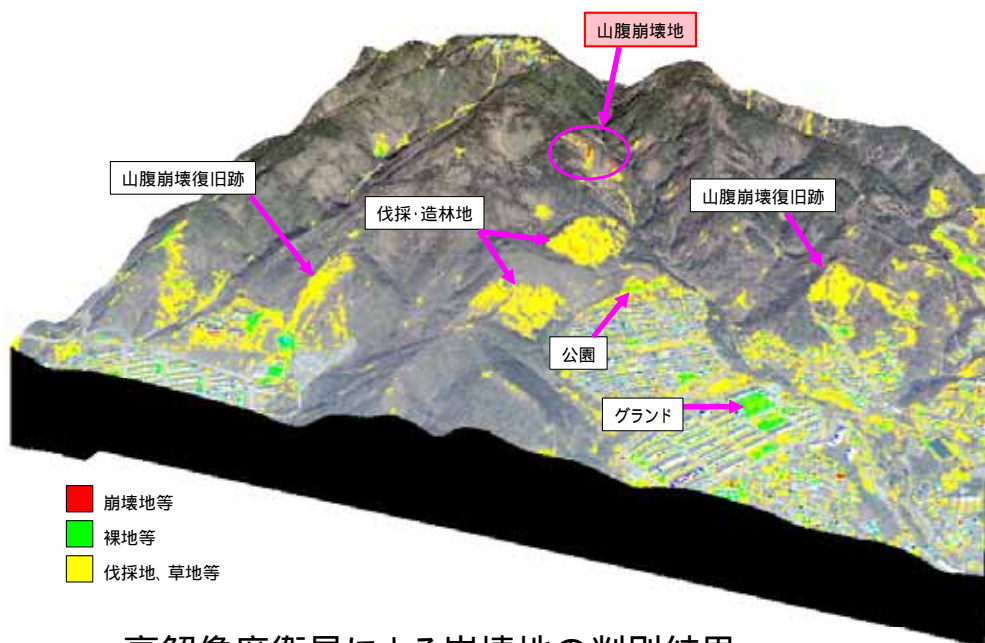


高解像度人工衛星による山地災害の把握

1m解像度の衛星(IKONOS)画像データを用い、光の反射特性の違いを利用して山地災害の把握を行った結果、5m程度の小規模な山腹崩壊の把握も可能であることがわかりました。

また、崩壊地の判別結果を衛星画像および標高データと重ね合わせて立体表示することで、人家等の守るべき保全対象との位置関係を視覚的にとらえることが可能となり、復旧計画立案時にも非常に有効であると思われました。

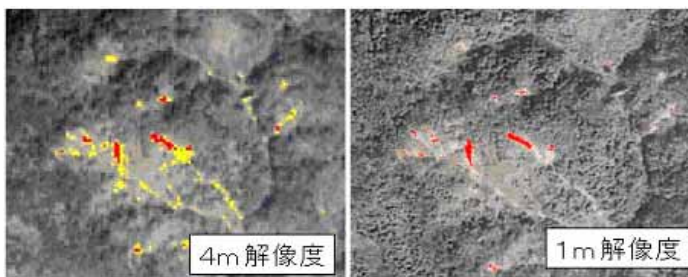
台風等による風倒被害地についても、同衛星データを用いて把握を試みた結果、判別が可能であることがわかりました。



高解像度衛星による崩壊地の判別結果



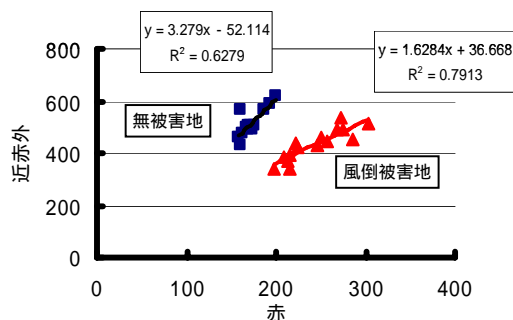
GPSとモバイルPCによる踏査



判別結果の拡大図



風倒被害地の判別結果



風倒被害地と無被害地の光の反射特性